



©Andrew Levine

94年に渡米し、ニューヨークを拠点にジャズ・シンガーとして活動してきた伊東友子 (Yuko Ito)。その後ブラジル音楽に目覚め、2009年以降、ブラジリアン・ジャズ志向のリーダー作を2枚リリースし、ライブ活動も積極的に行なっている。

最新のサード・アルバムが『エスペランサ』。ジョイス・モレーノのバンドで、また今年には渡辺貞夫とモニカ・サルマーズのライブでも来日したニューヨーク在住

伊東友子『エスペランサ』

名ピアニスト、エリオ・アルヴィスの率いるトリオとの録音を軸に、自身のダイナミックな歌声を披露する

文●中原 仁
text by JIN NAKAHARA



©Andrew Levine

のピアニスト、エリオ・アルヴィスのトリオを軸に、ジャズ・ピアニストの福森道華との共演、さらにホメロ・ルバンポとのデュオもあり、ニューヨークのファースト・コールが揃い踏みだ。

最も感銘を受けたのが、軸足が安定してブレない、伊東友子のダイナミックな歌声。ジャズのインプロヴィゼーション精神とブラジルの歌ごころを併せ持ち、自身の揺るぎない「声」を備えている。自身のキャリアと新作について、メールでインタビューした。

——公式サイトを拝見して、ロック、ジャズ、ゴスペルなど幅広い音楽の素養をお持ちであることが分かりました。「2004年からブラジリアン・ジャズに魅せられ研修を積む」とありますが、きっかけは何でしたか？

伊東友子（以下、I） 当時のルームメイトがブラジル音楽が大好きで、いつも大音量でダニエラ・メルクリを聴いていました。私の周りにブラジル音楽好きが沢山いて、私に絶対合うから、ジャズからブラジル音楽に切り替えたなら、とよく言われていました。

当時、Cafe Wa、Coffee Shop、SOBs、Zinc Bar、そうそうたるブラジルのミュージシャン達が演奏していて、特にCoffee Shopは私のアパートから徒歩10分で、ご近所のマウシヤ・アチネーがホメロ・ルバンポ、エリオ・アルヴィス、ニルソン・マッタとブランチ・ライヴをやっていたので、よく観に行っていました。そのうちにブラジル音楽が大好きに

なり、歌うならとことんやろうと思い、2004年頃から少しずつレッスンを取り、2006年から5年間は毎週レッスンを受けていました。多い時には週に3回、生でブラジル音楽を聴いて、彼らが演奏している曲のタイトルを覚えてもらってCDを探して自分も歌うことをやってみました。よく聴いていたのはジャヴァン、ジルベルト・ジル、エリス・レジーナ、ジョアン・ボスコです。

ニューヨークに來たての頃、真向かいの部屋に住んでいたのがヴァネッサ・アラベツラで、今もレコーディングの前や新しい曲に取り組み時に発音を聴いてもらっています。

——『エスベランサ』の軸となる共演者、エリオ・アルヴィスとの出会いは？彼の音楽の印象も含めて教えてください。

I エリオとの出会いはCoffee Shopだと思っています。もう何年も前です。演奏と一緒にやりだしたのは2年ぐらい前から、私のリーダー・ライヴで演奏をよく頼んでいます。エリオの歌伴のセンスは凄いです。特にデュオの2曲は本当に歌いやすく、私のいい所を引き出してくれたと思います。エリオのトリオが本当に息ぴったりでタイトな演奏をしてくれました。

——「ポインタ・チ・アレイア」の独創的なアレンジはあなたのアイデアですか？

I 私が考えました。オリジナルに近い感じでリハーサルしたのですが、みんなと同じじゃ嫌だなというのと、今回はバイアオンの曲が多いのでリズムも変えたいと思いアフォシエーにしました。アレンジするためにYoutubeでいろいろな人の演



伊東友子
『エスペランサ』(2017年)
(FUNNY BABY FACE RECORD |
お問合せ ディスクユニオン | 11月22日発売)

- ① Vera Cruz
- ② Moon River
- ③ Só Danço Samba
- ④ Manhã De Carnaval
- ⑤ Owari No Nai Kisetsu 終わりのない季節
- ⑥ Madalena
- ⑦ Começar De Novo
- ⑧ Ponta De Areia
- ⑨ Stolen Water
- ⑩ Vivência/Obsession
- ⑪ Tsubasa Wo Kudasai 翼をください
- ⑫ What A Wonderful World
- ⑬ Esperança

奏を聴いた中で、ミルトンが沢山の子供達と歌っている映像を見つけて、凄くノスタルジックでいいなと思い、こんな感じを出したいなと思ってイントロを考えました。

—— 福森道華さんと録音したあなたのオリジナル曲「終わりのない季節」とドリ・カイミの「ヴィヴェンシア／オブセツション」は、ブラジル北東部のリズムに基づいたアレンジです。北東部の音楽も



好きですか？ また、北東部のリズムはジャズ的な表現との相性が良いと思いますが、どうお考えですか？

—— 大好きです。2曲ともリズムは私のアイディアなのです。北東部のリズムは懐かしさを感じるというか日本人に馴染みが深いように感じるのは私だけでしょうか？ 私はどちらかと言えば感覚派で、理論のことはあまり考えていないし説明するのも得意ではないのですが、ジャズの6/8の曲をブラジル音楽風にアレンジする時に好んでアフオシェー、バイアオンのリズムを使うことが多いです。

バイアオンのリズムは2拍子でジャズは4拍子が主流ですが、ソロなどはブルース・スケールをよく使うので、ジャズ的には共通点が見いだせると福森道華さんが言っていました。ジャズとブラジル音楽はリズムが真逆に感じます。ジャズのスイングはレイドバックが気持ちいいし、ブラジル音楽はシンコペーションが気持ちいいし。サンバのダンスもリオとバイアアでは随分違いますよね。カリオカ・スタイルは、つま先に重心がかかっている前乗りですが、バイアア・スタイルは踵に重心がかかっている、やや後ろ乗りのように思います。やや後ろ乗りがジャズの表現と相性がいいのかもしれないですね。

—— ホメロ・ルバンボとデュオで録音した「ソ・ダンソ・サンバ」は、かつてのレニー・アンドラーチとホメロのデュオに匹敵するクオリティーだと思います。ホメロの印象は？

—— わー！ 嬉しい。ホメロが本当に素晴らしい。私も自由に歌えました。彼とレコーディングするなら絶対にデュオと決めていました。2曲とも2テイクぐらいで終わり、本当に素晴らしいミュージシャンは何テイクも録らないんだなと、つくづく思いました。ホメロのライブはもう何十回と観に行つて、いつも幸せな気分浸つて帰路につきまします。なぜなら、彼がギターを弾くのが楽しくてしょうがないと、体全体からにじみ出ているんです。レコーディングの時も同じで、本当に楽しくて、ずっと笑っていました。

—— 長年、ニューヨークに根を張つて活動が続けていく上で、最も大切だと考えていることは何ですか？

—— ライヴを続けてやつて行くこと。実力をつけること。本当に素晴らしいミュージシャンが沢山いるので生存競争が大変です。負けなためにも実力をつけて、ライブを続けて、人のライブも観に行く！ です。

—— 回答からも分かるように、伊東友子は自らリズム・アレンジを行なうなど、音楽の全体像を見据えて歌う自己プロデュース力を備えている。ブラジリアン・ジャズというジャズ・サンバのイメージが強いが、今後も北東部のリズムを積極的に取り入れていくことで、多民族都市ニューヨークで「ブラジル音楽を歌う日本人」としての独自の存在感を發揮できる。そんな手応えを感じた。

—— ちなみに、リオには2度行つてラパのクラブでも歌つた彼女、「今度はバイアアに行きたいです」と締めくくつた。